

図書館だより

○中央 ☎072-950-5501 (月)休館
○陵南の森 ☎072-952-2750 (金)休館
○東部 ☎072-950-2002 (金)休館
○古市 ☎072-958-0050 (月)休館
○ブックステーションはびきのコロセアム ☎072-937-7210 (火)休館
○丹比 ☎072-937-2355 (金)休館
○羽曳が丘 ☎072-958-8653 (金)休館
☎072-957-5553 (金)休館
開館時間 10:00 ~ 17:30
休館時間 13:30 ~ 16:30 開館
全館休館 毎月最終水曜 (12月を除く・祝日の場合は翌日)

●開館時間 10:00 ~ 18:00 (中央は平日 10:00 ~ 20:00 土日祝 10:00 ~ 18:00)

おはなし会 (3月)			今月の特集テーマ	
中央図書館	1日(土) 15日(土)	11:00 ~	一般	すきま時間に読書でコーヒーブレイク
	9日(月) 23日(木)	14:00 ~	児童	1番・No.1の本
	15日(土)	15:00 ~	特集1	世界遺産講座
陵南の森図書館	2日(月) 9日(月) 22日(土)	11:00 ~	特集2	装丁を楽しむ本
	15日(土)	15:00 ~	特集3	谷川俊太郎の本
	16日(月) (小さい子向け)	11:00 ~	一般	ゲームは文化だ
東部図書館	16日(月) (少し長い話を聞ける子向け)	11:30 ~	児童	パンダのほん
	12日(水)	10:30 ~	日本全国ご当地ものがたり	
羽曳が丘図書館	8日(土) 22日(土)	11:00 ~	田舎っていいな	
古市図書館	定例のおはなし会はありません		一般	いろんな名所、ございます。
丹比図書館	22日(土)	10:30 ~	児童	ほかほか「はる」がやってきた♪
			あたらしい発見の旅	

おはなし会ボランティア入門講座 (全4回)

日時 6月4日・11日・18日・7月2日(水)
10:15 ~ 12:00
場所 中央図書館 多目的室
講師 羽曳野市子ども文庫連絡会・おはなしの森の皆さん
定員 10人(先着順)
対象 おはなしボランティアに関心のある大人の方なら、どなたでも参加できます
申込 4月1日(火) 9:00より
図書館ウェブサイトにて先行受付
4月8日(火) 10:30より
中央図書館にて受付(電話可)

春休み! おはなし大会『おはなしで世界旅行』

3月29日(土) 中央図書館1階
第1回 13:30 ~ (小さい子向け)
「あなのおはなし」ほか
第2回 14:00 ~ (小学校低・中学年向け)
「わたしがテピンギー」ほか
第3回 14:40 ~ (小学校高学年~大人向け)
「海の水はなぜからい」ほか
おはなし 羽曳野市子ども文庫連絡会・おはなしの森の皆さん
申し込みは不要です。直接会場へお越しください。

大人のための世界遺産講座 世界遺産登録 ep.0 (エピソード・ゼロ) ~ KOFUN WARS ~

日時 3月30日(日) 14:00 ~ 16:00
場所 LIC はびきの 3階 視聴覚室
対象・定員 大人 先着 50名
※世界遺産に興味のあるお子様も参加できます
申込 中央図書館に来館・電話または図書館ウェブサイトからお申し込みください
2月28日(金)より、どなたでも申し込み可(それ以前は図書館利用カードをお持ちの方のみ受付)

館内整理日のお知らせ 3月26日(水)
毎月最終水曜日(12月を除く)は館内整理日のため、市内の図書館は全館休館となります。
図書の返却はブックポストをお願いします。(CD・DVDなどや、他自治体からの借用図書はポストには入れないでください)

羽曳野市立図書館ウェブサイト
各イベントの詳細・Logoフォームからの申し込みはこちらからどうぞ

サラダボール

私が中学生の頃、祖父が認知症のため食事を何度もとったり、孫や妻の事が徐々に分からなくなり、自宅から出ていくと戻れない状態でした。昼間祖父が1人になるため、家から出て行かないよう門扉に鍵をかけたこともありましたが、その頃介護保険制度が無かったため、現在とは異なり、自由にヘルパーやデイサービス等のサービスを選択できず、家族で介護せざるを得ない状況でした。周りに迷惑がかけられないよう家にいてもらうことに必死になっていたように思います。

今の日本では、介護保険制度があるとはいえ急激な高齢化で認知症の人が増える中、政府は認知症になって希望を持って生きられる社会を実現するという「新しい認知症観」に立った

取り組みを推進するため、認知症施策推進基本計画が令和6年12月3日に閣議決定されました。

「新しい認知症観」とは認知症になっても、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考えです。

しかし認知症になると「何もわからなくなる」「ふつうの生活が送れなくなる」「すべてを忘れてしまう」等、家族や周囲の人の認知症に対する偏見や誤解から、社会的に孤立しやすい実態があります。祖父をみていた頃の私にもその様な感情があったと思います。正しい知識があれば、認知症になってもできること・やりたいことがあると理解し、あきらめず家族や地域のひとと支えあい、本人の思いをかなえることが出来たのではと思うととても悔やまれます。

2022年の認知症の高齢者数は約443万人、軽度認知障害の高齢者数は約559万人と推計され、高齢者の約3.6人に1人が認知症又はその予備軍といえる状況にあります。このデータから誰しも認知症になりえるということが分かります。

誰もが自分ごととして捉え、「新しい認知症観」がまち全体に根付き、誰もが希望と尊厳をもって暮らせるよう、相互に支えあいながら共生する社会の実現が必要とされています。

(参考)
出所: 厚生労働省令和5(2023)年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究報告書」(研究代表者: 二宮利治)。

はびきの し じんけんけいはつすいしんきょう ぎ かい
羽曳野市人権啓発推進協議会